

「普通の生活を送れる。これがうれしい。」

特別インタビュー

インターンシップ生が訊きました！
ホームレス状態から居宅生活に移行するまで

お話を聞かせてくれた人

聞き手



田島さん（70）
Homedoorでの相談を経て、現在は生活保護を利用して居宅生活を送っています。4月で居宅生活3年目になります。



仁井田祐毅
関西学院大学

1. どうしてホームレス状態になったのですか？

奈良とか大阪で働いてたけど会社が潰れたりして。手持ち金がなくなってからはどうしようもなくて、50代前半に大阪の梅田辺りで野宿を始めた。

2. 路上生活を始めた当初はどうでしたか？

最初に野宿したのは冬の梅田やった。でも奈良から来たばかりで何もわからずに着の身着のまま寝ようとしたけど、寒くて寝れたもんじゃなかった。そしたら近くで寝てたおっちゃんが一緒にダンボールを探してくれた。助けてくれたんや。ありがたいしかない。

3. 食事はどうしていたのですか？

コンビニで捨てられた弁当を夜に取りに行ってた。でもこれは早い者勝ちやから、食べられへん日もあった。あとは、週一回あるかないかの炊き出しに行ってた。でもお腹いっぱいになることなんてなくて、常に空腹やった。

4. Homedoorのことはどのようにして知ったのですか？

知ったのは3年前くらい。路上で生活してた時に知り合いやった人に教えてもらった。それからすぐに事務所に行った。家が欲しかったんや。Homedoorで相談してから2週間くらいで家を借りることができた。ほんとにうれしかった。

5. 路上生活から居宅生活に移行して何が変わりましたか？

早く、安心して、眠れるようになった。あと他人の目を気にしなくてよくなったっていうのもある。こういう普通の生活を送れることがうれしい。



インタビューを終えて

ホームレス状態の方たちは路上でも助け合いのコミュニティを形成しているという事が分かりました。人からの支えが生きる力となり、Homedoorの存在もその支えの一つだと思いました。「ホームレス問題を“自己責任”という言葉で片づけてはならない。」よく耳にするこの言葉。ホームレス問題は本人だけの問題だという考えは浅はかで責任逃れだと思いました。それは私たち社会全体が当事者であるからです。ホームレス問題を生み出した原因は社会の方にあり、私たちは自分事として考える責任があると思います。私自身もホームレス問題から目をそらすことなく、向き合いたいと思います。これからも皆さんにHomedoorの活動を支えていただけると嬉しいです。

冬募金についての詳細はこちらのURLからご覧いただけます

<http://www.lp.homedoor.org/donation2018>